金沢歴史年表

昭和53年3月

横浜市金沢区役所

明治初期の平潟湾周辺
バローズアルバムより

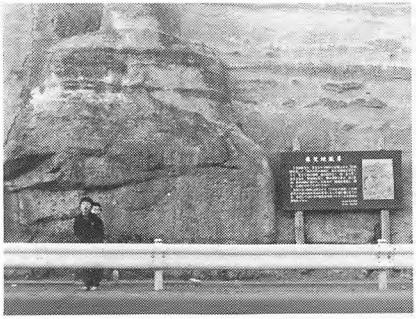
金沢歴史年表

早朝の称名寺鐘楼

上／1241年（仁治二年）にひらかれた朝比奈切通し（昭和53年写す）

右／切通しの出入口にある道祖神と庚申塔

上／江戸名所図会に見る
鼻欠け地蔵（六浦町
字大道）



右／現在の鼻欠け地蔵

左／明治憲法草創
記念の碑(野島)
明治21年

下／大正時代活躍し
た直木三十五宅
跡の碑(富岡町)

神奈川縣郡市町村別世帶及人口表

	世帶	人口 總數	人口 男	人口 女
神奈川縣	五六、二一六	一、三三、三三一	六六、三三二	六六、八九九
横濱市	五五、四三一	四三、八四一	二三、四〇三	二〇、四三八
横須賀市	一六、五六六	八六、八五五	四五、六七〇	四一、一八五
久良岐郡	三、三六六	一八、四三一	九、四六六	八、九六五
屏風浦村	四、六九七	二、六六二	一、三〇九	一、三五三
鶴見村	二、七九七	一、六三一	八一七	八一四
大川村	六、四七七	三、四三一	一、七一四	一、七一七
日下部村	六、六七七	三、五六一	一、七一一	一、七五〇
下浦村	二、〇七七	一、一五一	五七七	五七四
金澤村	四、九七七	二、四三一	一、二一四	一、二一七
六浦村	二、七七七	一、四一一	七〇五	七〇六
橘樹郡	六一、三三一	三四、八五五	一八、六四〇	一六、二一五
城南村	九四〇	四、八二四	二、六六九	二、一五五
鶴見村	六、六七七	三、四四一	一、七九一	一、六五〇
大綱村	六、三三一	三、四四一	一、七一一	一、七三〇
生麦村	一、七一〇	一、五五一	八一〇	七四一
川崎町	四、三三一	二、三五一	一、一六一	一、一九〇
見尾村	一、四一一	七一六	三五一	三六五
往還村	一、四一一	七一七	三六一	三五六
御幸田村	一、八一一	一、〇四一	五一一	五三〇
町田村	一、六一一	九一四	四六一	四四八
大師河原村	一、七一一	一、〇一一	五一一	五〇〇
島田村	一、七一一	一、〇一一	五一一	五〇〇
日吉村	一、六一一	九一四	四六一	四四八
中原村	二、〇一一	一、一六一	五七一	五八〇
高津村	二、〇一一	一、一六一	五七一	五八〇
橋本村	一、六一一	九一四	四六一	四四八
宮前村	一、七一一	一、〇一一	五一一	五〇〇
向丘村	一、七一一	一、〇一一	五一一	五〇〇
生田村	一、七一一	一、〇一一	五一一	五〇〇
稲田村	一、七一一	一、〇一一	五一一	五〇〇
柿生村	一、七一一	一、〇一一	五一一	五〇〇
都筑郡	七、三三一	四、六四一	二、三四〇	二、三〇一
都田村	一、七一一	一、〇一一	五一一	五〇〇
新田村	一、七一一	一、〇一一	五一一	五〇〇
中川村	一、七一一	一、〇一一	五一一	五〇〇

第1回国勢調査　大正9年

金沢区現景（昭和53年３月写す）

はしがき

本年表は、金沢区制施行30周年を記念して刊行したものであります。

その昔、画の名人である巨勢金岡をして絶倒させたと云われている史跡金沢の景勝は、古来から近江八景とともに天下に喧伝されていたところであります。

こうした歴史とともに栄えてきた金沢に関し、多くの文献等も刊行されておりますが、いままでに、その古き良き時代の想い出を年代的に纒めたものがなかったので、去る昭和29年に「横浜市史編集室」の校閲をうけて、歴史年表を創刊いたしました。

しかしながら、その後、更に20数年の月日も経過し、また本年は、区制施行30周年と云う記念すべき年でもありますので、さきの創刊年表の続編として、その後における史実を追加集録し、編集刊行したものであります。

本年表が、区民みなさま方の参考となり、ひいては郷土愛をはぐくみ、金沢区発展の一助ともなりますれば幸であります。

昭和53年 3月

金沢区長　神　子　剛　康

金沢歴史年表

西暦年号	月日	主なできごと
一一八五（元歴二 文治元）	※	源頼朝が瀬戸明神をたてた（伝）。おなじころ北条政子が琵琶島弁財天をたてた（伝）。
一一八九（文治五年）	※	このころ源頼朝が、文覚上人と志をあわせ六浦の山中に浄願寺をたてた（伝）。
一一九一（建久二年）	※	源頼朝が富岡の鎮守（今の八幡社）をたてた（伝）。
	※	源範頼が六浦の瀬ヶ崎に薬師寺をたてた（伝）。
一一九三（建久四年）	※	源範頼が瀬ヶ崎の薬師寺（太寧寺）で自殺した（伝）。
一二〇五（元久二年）	※	畠山六郎重保（しげやす）が、北条義時と戦い討死した。釜利谷の六郎ヶ谷（トンネル附近）にある五輪の石塔はその墓といわれる（伝）。

一二一九（建保七 承久元）	※	運慶が抜頭面を瀬戸明神社に納めた。この面は源実朝の舞楽の面であったといわれる。
一二二八（安貞　二）	四・二八	藤原頼経が六浦に遊覧した。
一二三〇（寛喜　二）	三・一九	藤原頼経が三浦義村の案内で、三崎磯に遊覧したとき六浦から船でわたった。
一二四一（仁治　二）	一一・三〇 四・五	鎌倉と六浦間の道路を開く会議が幕府ではじめてあった。 鎌倉・六浦間の道路工事がはじめられた。
一二五四（建長　六）	五・一四 一一	朝比奈切通がひらかれ鎌倉街道ができた。 日蓮上人と富木五郎とが船中問答を行った。その上陸地と伝えられるところに、安立寺と上行寺がある。
一二五八（正嘉　二）	四・二三	北条実時が灌頂の儀式を金沢の邸内で行った。
一二六〇（文応　元）	※	このころ、北条実時が称名寺（念仏宗）をたてた。
一二六八（文永　五）	※	北条実時が極楽寺の忍性のすすめで、野州の薬師寺から審海を

西暦年号	月日	主なできごと
一二六九（文永　六）	六・　五	迎えて、称名寺を真言律宗に改めた。 一切経、青磁花瓶、おなじく香炉などを積んできた宋船三艘が六浦三艘泊についた（伝）。
一二七三（文永一〇）	一一・　七	北条実時が称名寺に鐘を寄附した。
一二七五（建治　元）	※　五	瀬戸堤内の入海の殺生が禁じられた。 北条実時が金沢を別荘の地と定めた。実時は称名寺殿と号した。
一二七六（建治　二）	※	このころ、北条実時が金沢文庫をたてた（伝）。
一二九一（正応　四）	一〇・二三	北条実時（五三）が金沢の別荘で死んだ。
一二九七（永仁　五）	九・二四	綱維比丘賢恵（こういびくけんえい）が称名寺三重塔（愛染堂ともいう）の供養をした。
一三〇一（正安　三）	二・二七	藤原秀吉が金沢寺（称名寺）で金銅の愛染像をつくった。 北条顕時（あきとき）が称名寺の鐘を改鋳した。
	二・　七	北条顕時（五四）が死んだ。
	三・二八	

	一二・六	峠村（今の朝比奈町）の浄林寺の開山葺航（いこう）が死んだ。 葺航は宿村（今の釜利谷町の一部）白山の東光寺中興の僧で、大興禅師という。
一三〇二（乾元　元）	七・二三	杉田村東漸寺の開基、北条備前守宗長が死んだ。宗長は富岡に住んでいた。
一三〇四（嘉元　二）	※	称名寺の開山、審海（七三）が死んだ。
一三一〇（延慶　三）	一・二二	大仏陸奥守宗宜（おさらぎ）・北条相模守師時が信濃国太田庄大倉郷（地頭職）を尼永忍の申請によって称名寺に寄附した。
一三一一（延慶　四　応長　元）	三・二二	金沢貞顕が称名寺の剣阿（けんあ）に称名寺内の山林、山畠と金沢瀬戸内海の殺生を禁止するむねの自筆書状をあたえた。
一三一九（文保　三　元応　元）	四・二六	寂尹（じゃくいん）が瀬戸明神社に石の鳥居をたてた。
	※	瀬戸橋があたらしくつくられた。
一三二三（元亨　三）	二・二七	称名寺の七堂伽藍が完成した。

西暦年号	月日	主なできごと
一三二五（正中二）	※	藤原貞泰が「大般若経」を富岡八幡社に納めた。
一三三二（元弘二・正慶元）	二・一六	金沢武蔵守貞将が下総国下河辺庄内赤岩郷・信濃国石村郷・武蔵国六浦庄富田郷（今の釜利谷町）を称名寺に寄附した。
	九・一三	夜、称名寺の阿弥陀堂で連歌の会があった。
一三三五（建武二）	六・一一	このころ、吉田兼好が称名寺にきて、歌の会に参列した（伝）。
	一一・七	宿村の白山堂（後の東光寺）が称名寺に寄附された。このころから応永一一年（一四二四）ころまで称名寺の末寺であった（伝）。六浦引越の泥牛庵をひらいた士雲（鎌倉円覚寺第十七世）が死んだ。
一三四七（正平二・貞和三）	九・一八	夜、応長元年（一三一一）五月一八日に海に流された長浜観音が柴村漁民の手繰網に入り出現した。のちに称名寺赤門のかたわらにまつられた。

一三五二（正平七・文和元）	三・三	足利尊氏が称名寺に金沢郷塩垂場などを寄附した。
※		妙法日荷上人が杉田村大戸に妙法寺をたてた。
一三五三（正平八・文和二）	※	称名寺第四代の実真が、六浦瀬戸橋の供養を行った（伝）。
一三六二（正平一七・貞治元）	六・一三	妙法日荷上人が死んだ（伝）。
	四・二〇	兵部大輔代左衛門尉信斗から称名寺へ寺内の阿弥陀堂敷地および塩場の渡状が下付された。
	五・二四	高師有（陸奥守）から称名寺境内において乱暴狼籍禁止の制礼（せいさつ）がだされた。
一三六三（正平一八・貞治二）	一〇・二	六浦の嶺松寺の開山と伝えられる月窓が死んだ。
	四・一六	足利基氏が金沢瀬戸の内海の殺生を先例によって禁止した。
一三六四（正平一九・貞治三）	六・七	左衛門尉政久から上総国周東郡下村半分と子安村（地頭職）が称名寺に返された。
一三七一（建徳二・応安四）	四・一五	沙弥聖応、右馬助憲宗が連名で下総国大須賀保柴村の内の田、

西暦年号	月日	主なできごと
		在家と奈土郷内下坊の別当職を称名寺末、大宝院に寄附した。
	一〇・二〇	高坂兵部大輔が称名寺の什尊（じゅうそん）に釜利家郷内の白山堂をもとのように管理させた。
一三七四（文中三 応安七）	四・一五	瀬戸明神社の鐘（あるいは神主千葉胤義の寺である嶺松寺の鐘）がつくられた。鐘の銘は鎌倉宝戒寺二代の普川（ふせん）（足利尊氏の第二子）の筆である。
	五	六浦の上行寺をひらいた日祐上人（本山下総中山法華経寺第三祖）が死んだ。
一三七六（天授二 永和二）	六・二二	足利義満が称名寺の霊波（れいは）に称名寺領の内外敷地、塩垂場などを寺領としてみとめた。
一三七七（天授三 永和三）	八・一五	六浦大道の常福寺（真言律宗・称名寺末）をひらいた審覚が死んだ。

一三八二（弘和二・永徳二）	四・二一	上杉安房守道合（入道憲方）が方崖和尚をまねいて六浦に能仁寺をたてた。
一三八三（弘和三・永徳三）	九・一六	六浦引越の金龍院および能仁寺をひらいた方崖が死んだ。
一三九九（応永六）	※	赤井村御中井の真浄寺がつくられた。
一九〇二（応永九）	八・二三	足利満兼が称名寺領の上総国金田保内、高柳郷および同国佐貫郷をみとめた。
一四二二（応永二九）	七・一七	称名寺造営のため六浦大道の常福寺門前に関所をおいて、人は二文、馬は三文の税をとりたてた。
一四二三（応永三〇）	※	瀬戸明神社を修繕した。
一四三八（永享一〇）	一一・四	関東管領の足利持氏が将軍足利義教に反抗して、いわゆる金沢合戦がおき、持氏はやぶれて翌五日に金沢称名寺にのがれた。
	一一・七	海老名尾張入道が足利持氏にしたがって戦い、やぶれて六浦引越の道場で自殺した。

西暦年号	月日	主なできごと
一四七三（文明　五）	九・二九	細川陸奥守の家老伊丹左京亮が宮ヶ谷に手子神社をたてた（伝）。
一四三五（文明一七）	※	秋、歌僧堯恵が称名寺に来遊した。
	※	浄源寺、光徳寺が合併して知足山龍華寺となった（伝）。
一五〇七（永正　四）	九・二〇	龍華寺内の引攝をひらいた義弁が死んだ。
	一二・一八	宿村北谷の金蔵院をひらいた弘吽が死んだ。
一五一二（永正　九）	一一・二六	坂本村会下の禅林寺の良庵（下総国関宿の東昌寺を開いた人）が死んだ。
一五二一（大永　一）	※	町屋の伝心寺がたてられた。開いた人は養拙宗牧という。
一五二四（大永　四）	八・一	龍華寺の融弁が死んだ。
一五四一（天文一〇）	五・五	龍華寺の鐘がつくられた。
一五六〇（永禄　三）	六・七	小田原の北条氏康・氏政父子が金沢文庫の蔵書「文選」（宋の時代に出版されたもの）を足利学校に寄附した。

一五六四（永禄　七）	二・二六	町屋村天然寺を開いた然誉（品川願行寺第三世）が死んだ。
一五六六（永禄　九）	三・一七	野島浦の善応寺をひらいた源朝が死んだ（伝）。
一五七五（天正　三）	八・一六	六浦の長生寺の頓乗が死んだ。長生寺はもと真言宗で寿楽寺といい、頓乗のとき浄土真宗に改め寺号をかえたという。
一五七八（天正　六）	※	六浦小名川の善照寺をひらいた日得が死んだ。
一五九〇（天正一八）	四	豊臣秀吉が称名寺・寺之前・海岸寺に乱暴狼籍、放火などの禁制をだした。
	八	徳川家康が江戸城に入り、金沢附近を代官原田佐左衛門に支配させた。
一五九一（天正一九）	※	青戸が間宮左衛門信繁の知行（ちぎょう）になった（伝）。
	一一	六浦郷のうち一〇〇石を瀬戸明神社領に寄附した。
	※	この年、寺前村のうち一〇〇石が称名寺領になった。
一五九四（文禄　三）	※	富岡村の豊島四郎兵衛信貞の子信満が旗本になった。

西暦年号	月日	主なできごと
	※	このころ、代官原田佐左衛門が町屋村、宿村を検地(けんち)した(伝)。
一五九五(文禄　四)	七・二四	六浦小名川の光伝寺を開いた得蓮社忍誉空公霊伝(どくれんしゃにんよくうこうれいでん)が死んだ。
	※	富岡村が旗本の豊島刑部少輔信満の領地となった。
一六〇二(慶長　七)	※	徳川家康が金沢文庫の蔵書「群書治要」「春秋経伝集解」などを江戸の富士見亭文庫へ持ちだした。
一六〇九(慶長一四)	※	龍華寺が武蔵・相模・伊豆三ヵ国の古義真言宗法談所三四院の一に定められた。
一六一〇(慶長一五)	※	豊島刑部少輔信満が富岡の八幡社を修理した。
一六一一(慶長一六)	八・四	富岡村の長昌庵をひらいた仙溪が死んだ。
一六二四(寛永　元)	※	豊島刑部少輔信満が富岡村に慶珊寺をたてた。
一六二七(寛永　四)	※	富岡村慶珊寺をひらいた伝栄法印が死んだ。
一六二八(寛永　五)	八	富岡村が八木勘十郎宗直の領地となった。

一六四一（寛永一八）	※	町屋村伝心寺の鐘を、洲崎村の人、窪寺検校（格翁宗越居士）が寄附した。
一六四三（寛永二〇）	一二	野島山に稲荷社をたてて野島の鎮守とした。このころ江戸の紅葉山東照宮の忠尊のねがいで、その祖先、伊丹右衛門大夫のもとの領地の坂本村が紅葉山東照宮の神領となった（伝）。
	※	このころ、富岡村慶珊寺の伝雅が板橋に芋明神をまつった。
一六五六（明暦　二）	一一	八木但馬守宗直・十三郎高豊の両人が富岡村の八幡社に鐘を寄附した。
一六五七（明暦　三）	四・一〇	富岡村悟心庵をひらいた龍州が死んだ。
一六五八（万治　元）	五・一八	六浦三艘の宝樹院の永叫が死んだ。
一六六二（寛文　二）	二・一六	六浦瀬戸の円通寺を開いた高栄が死んだ。
	二	谷津村・六浦寺分村・六浦平分村が久世大和守広之の領地となった。

西暦　年号	月日	主なできごと
一六六六(寛文　六)	二・二七	富岡村西源庵を開いた担月が死んだ。
一六六七(寛文　七)	※	八木氏が富岡村を検地した。
一六六八(寛文　八)	※	永島祐伯（号は泥亀）が走川および平潟の二ヵ所に新田を開いて、塩田二丁歩、田一五石を得た。これが泥亀新田のおこりである。
一六七五(延宝　三)	一〇・一五	峠村の峠坂を修理した。浄誉向入が死んだ。
一六七七(延宝　五)	※	冬、加賀の金沢藩主前田綱紀（松雲）の家臣津田六郎兵衛光吉が古書をたずねて称名寺へきた。
一六七九(延宝　七)	八・九	町屋村天然寺の鐘がつくられた。
一六八〇(延宝　八)	一〇	泥亀新田の名主与右衛門が代官坪井牛之助に走川新田の汐除堤長さ七〇間と平潟新田の汐除堤長さ三三六間の修理の予算書をだした。

一六八一（天和　元）	一二	称名寺金堂（現存）がたてられた。
一六八七（貞享　四）	一〇	代官西山六郎兵衛が金沢領の仕置帳をだした。このころ、水戸の徳川家から称名寺へ珍書をさがしに来た。
一六八九（元禄　二）	※	柴村宝蔵院を伝宥がふたたびたてた（伝）。
一六九五（元禄　八）	※	峠村の熊野社を地頭加藤太郎衛門がふたたびたてた。
一六九六（元録　九）	※	称名寺領以外の寺前村と、瀬戸神社領以外の社家分村、六浦の寺分村・平分村・釜利谷の宿村・赤井村の六ヵ村が米倉丹後守昌尹の領地となった。
一六九八（元禄一一）	※	米倉丹後守昌尹（まさただ）が六浦引越さかいに陣屋をつくった。
一七〇一（元禄一四）	五・二六	富岡村が代官の支配所となった。
一七〇三（元禄一六）	二	六浦小名川の光伝寺の鐘がつくられた。
	※	金沢八景の勝景を心越禅師は漢詩（かんし）で、京極兵部高門は和歌でほめた（伝）。

西暦年号	月日	主なできごと
一七〇七（宝永　四）	※	幕府の元老酒井候が牡丹（ぼたん）を泥亀新田の永島氏におくった（伝）。
一七一二（正徳　二）	八	江戸の俳人立志・王全らが金沢にきた。翌々年またきてその紀行文「芋の子」を出版した。
一七一六（享保　元）	※	仲秋、町屋村安立寺の鐘がつくられた。
一七一七（享保　二）	※	萩生徂徠の門人太宰春台・安藤東野・山井崑崙が称名寺と文庫跡などをたずねた。
一七二二（享保　七）	七・二七	米倉丹後守忠仰（ただすけ）（はじめ保教という）が下野国皆川から金沢の陣屋にうつった。（一二、〇〇〇石をもった）。
一七三五（享保二〇）	四・八	六浦藩主、米倉丹後守忠仰（三〇）が死んだ。
	※	六浦三艘の宝樹院が大道にうつった（伝）。
一七三七（元文　二）	※	秋、俳人佐久間麦阿が門人の鈴木鷺貫・白井西奴と三人で、大山、箱根、伊豆からのかえりに六浦・金沢の勝景をみてかえっ

一七四一（寛保　元）	一二	た。「夏山伏」の紀行文がある。 永島段右衛門が平潟の海を埋立てるについて野島浦から支障がないという証文をいれた。
	※	青戸が代官の支配所となった。
	※	龍源寺（龍華寺）がやけた。
一七四二（寛保　二）	四	青木昆陽が古書をたずねて称名寺にきた。
一七六〇（宝暦一〇）	六・一四	江戸の小石川養生所の医師小川笙船（八九）が死んだ。 墓は遺言によって六浦瀬ヶ崎の太寧寺にたてられた。
一七六二（宝暦一二）	※	町屋村伝心寺の鐘がつくられた。
一七七一（明和　八）	二	代官久保田十左衛門が永島段右衛門に瀬戸の入江を埋立てさせるため、関係各村立会の上で境などをさだめた。
一七七八（安永　七）	六	雪中庵蓼太の「金沢行」が出版された。 能見堂に「武蔵国金沢碑文」がたてられた。

西暦年号	月日	主なできごと
	※	富岡村のうち四〇〇石と青戸が稲葉遠江守、富岡村のうち残りの五〇石が杉浦八郎五郎の領地になった（伝）。
一七七九（安永　八）	一〇	永島段右衛門が資金をえて瀬戸の入江埋立を幕府へ願い出たので再度の調査により周囲の関係九ヵ村は連名して支障ないむね書状をだした。
一七八三（天明　三）	二	金沢文庫の旧跡道標の碑が谷津にたてられた。（いまは称名寺の赤門前にうつされている。）
一七八四（天明　四）	※	飢饉（ききん）があった。こののち、寺前村の山田某が貞享のころ谷津にあった塩田を埋立て、大沢新田をつくった（伝）。
一七八五（天明　五）	※	永島段右衛門が勘定奉行の岸彦十郎のゆるしで金沢入江新田の埋立をはじめた。
一七八六（天明　六）	※	春ごろ、代官江川太郎左衛門が金沢入江新田を検地して泥亀新

	七	田村と名づけ、村にした。 関東大洪水があった。このため金沢入江新田の新墾地がことごとくおしながされた。
一七八八（天明　八）	九	泥亀新田の新開入用金の分担をひきうけた宿村の能右衛門、鎌倉郡上の村藤左衛門、岩瀬村源左衛門、上野庭村市左衛門の四人は出水後の自普請（じふしん）による修復出金ができないので永島段右衛門に無償でゆずった。
一七九〇（寛政　二）	二	称名寺の愛染堂がふたたびたてられた（伝）。
一七九一（寛政　三）	八・九	大風雨のため江戸湾沿岸に高汐があった。このため永島（六代）段右衛門成郷が埋立した泥亀新田の堤防はことごとく流失した。
一七九四（寛政　六）	二	称名寺の池畔に金沢安貞、千秋父子が「金沢文庫古趾碑」をたてた。
一八〇〇（寛政一二）	八	瀬戸明神社の社殿がたてられた（伝）。

西暦年号	月日	主なできごと
一八〇三(享和　三)	※	円通寺内の東照宮供料地のため釜利谷小泉に新田をひらいた(伝)。
一八〇五(文化　二)	※	称名寺の鐘楼をあらためてつくった。
一八〇六(文化　三)	五	富岡村・小柴村・野島浦の名主、猟師代は、他村の名主猟師代と、六人網漁業の板狩をしないことを申合わせ証文をとりかわした。
	一二	赤井村、宿村が金沢入江新田修理普請取掛りまでの期間一時通船の承諾をえた。
一八〇八(文化　五)	五	洲崎村・野島浦・町屋村・谷津村・寺前村が室ノ木・三艘の船持、保土ヶ谷宿の扱人と連名で金沢入江新田一時通船を願いでて承諾をえた。
	五	洲崎村の船持の代表庄五郎、安右衛門が金沢入江新田再開普請取掛りまでの間、うなぎ取稼を願いでて承諾をえた。世話人は

	一二	保土ヶ谷宿の年寄と名主後見人で税は一ヵ年船一艘につき一〇〇文、一月限り納めである。
一八〇九（文化　六）	四	三浦郡四ヵ村の内、鉈切の某が金沢入江新田内に無断で、船入渡世をしてみとがめられた。
一八一〇（文化　七）	※	町屋、洲崎の両村が協議の上、牛頭天王社を二社にわけることをさだめた（伝）。
	※	夏、長門藩の毛利親頼が家臣黒田頼久を、瀬ヶ崎太寧寺に派遣して、源範頼の神位と画像の装飾をなおさせた。
一八一一（文化　八）	※	幕府が「新編武蔵風土記」のうち、久良岐郡の編集をはじめた。
一八一二（文化　九）	四	峠村が会津藩松平肥後守容衆の領地となった。 能見堂のそばに俳人二世美山が「百八の鐘の別れやほととぎす」という江耆楼美山の句碑をたてた。碑はのちに泥亀の牡丹園にうつされた。

西暦年号	月日	主なできごと
一八一六（文化一三）	六	富岡村・小柴村・野島浦の名主は神奈川浦でひらかれた武蔵、相模、上総三国の内海浦方の会議に出て、新規漁業の禁止、海難の相互救助などを申合わせた。
	一二・一六	富岡村・小柴村・野島浦の猟師頭は、他の猟師頭と連名して江戸内湾漁猟大目三八職の覚書をだした。
一八一七（文化一四）	一	洲崎村旧福寿院境内に八坂神社をたてた（伝）。
一八一八（文政　元）	九	江戸茅場町の豪商石橋孫兵衛が称名寺仁王門（現存）を寄附した。
一八一九（文政　二）	九	石橋孫兵衛が称名寺あかざ堂石壇を寄附した。
	※	峠村が河越藩松平大和守矩典の領地となった。
一八二二（文政　五）	一〇	金沢の総宜楼に佐羽淡斎の詩碑がたてられた。
一八二六（文政　九）	九	野島浦の吉兵衛が幕府御用の活鯛二、〇〇〇枚余の調達にたいし上総・相模・武蔵三ヵ国四三ヵ浦総代の一人としてえらばれ

一八三三（天保　四）	七・二一	た。
一八三四（天保　五）	一〇	金沢の俳人長谷川義翁（六四）が死んだ。
一八三九（天保一〇）	四	守邨抱儀の「金沢紀遊」が出版された。
		鎌倉郡玉繩村の福原高峰が画工長谷川雪堤の模写をそえて「相中留恩記略」を完成した。巻二三に金沢がのっている。
一八四〇（天保一一）	九	寺前村の薬王寺の鐘がつくられた。
一八四三（天保一四）	三	町屋村ほか一二ヵ村が金沢領継場の組合増の助郷歎願を相談した。
	八	代官関保右衛門から御料所改革についての廻状がだされた。
	一一・一八	柴村に火事があり、村の半分と宝蔵院が焼けた。
	※	泥亀新田村が河越藩松平大和守の領地となり寛政三年以来汐入荒地になっていた金沢入江新田の起返しを永島段右衛門に命じた。

西暦年号	月日	主なできごと
一八四四（天保一五 弘化元）	※	柴村が河越藩松平大和守の預り所となった。
	一一	金沢入江新田の荒所起返しのため永島段右衛門が関係各村に支障の有無をたしかめた。
一八四五（弘化二）	三	金沢入江新田の埋立について坂本村がさしさわりがあるというので永島段右衛門は奉行所へ訴願した。
	一〇・一七	金沢入江新田の訴訟について奉行所が双方を呼んでしらべた。
	一一・二三	永島段右衛門が金沢入江新田の訴訟についてはやく解決するよう奉行所へ願いでた。
一八四七（弘化四）	二	永島段右衛門が金沢入江新田起返しのため瀬戸明神社境内姫子島裏手を借りた。
一八四九（嘉永二）	※	永島（九代）段右衛門忠篤（号は亀巣）が泥亀新田を完成した。
一八五一（嘉永四）	三	金龍院に江戸の田村資愛が「昇天山九覧亭之記」の碑文をたてた。

一八五二（嘉永五）	一〇・二	高汐で入江新田汐除堤および平潟汐除新堤がやぶれた永島段右衛門忠篤が平潟の塩田をひろげた。忠篤はそののち、五〇ヵ村の大取締となり一〇〇石をもらった。
一八五三（嘉永六）	三	重宜の版画「武洲金沢擲筆山地蔵院能見堂八景之画」が出版された。
	六・四	幕府は長門、肥後、越前、彦根の諸藩に命じ兵をだして江戸湾沿岸の要地を警備させた。
	六・四	アメリカ艦隊が本牧沖に碇泊し近海を測量した。
	七・二三	幕府は江戸湾内に砲台をたてた。
一八五四（嘉永七 安政元）	一・一六	アメリカ使節ペリーが軍艦七隻をひきいてふたたび浦賀沖にあらわれ、金沢小柴沖に碇泊した。
	一・二一	アメリカ軍艦一隻が杉田から本牧にきて附近の測量をはじめた。
	※	柴村が肥後藩細川越中守の預り所となった。

西暦年号	月日	主なできごと
一八五五（安政二）	一二	野島浦が不漁で困窮した。このため年貢にさしつかえ漁船五〇艘諸道具付を質物として金四〇両をかりいれた。
一八五七（安政四）	※	野島浦が洲崎村から分れて年貢割付皆済目録を下附されるよう久良岐郡大組合総代永島段右衛門に訴えた。
一八五八（安政五）	四・一一	六浦瀬戸に大火があった。旅館千代本から出火して東屋・天然寺・薬王寺がやけた。
一八五九（安政六）	六・一七	アメリカ総領事ハリスが神奈川沖に来航した。
	六・二	横浜が開港になった。
	※	このころ、村民北川某が六浦に塩田をつくった（伝）。
一八六〇（安政七 万延元）	一・一八	金沢野島浦の半次郎（五五）鉄五郎（二二）が第一回遣米使節新見豊前守正興（四〇）一行にしたがって米国軍艦ポーハタンに乗りこんだ。世界一周後九月一三日横浜帰着。ただし半次郎

		は途中サンフランシスコで病気となりひきかえして函館で死んだ。
	三	熊本藩細川越中守預り所の町屋村・小坪村・下平作村三ヵ村の継場助郷の村々が困ってきたので、野島浦名主久保寺金右衛門らが代表して、永島段右衛門に歎願して、久良岐郡御役所の非常備金のなかから一五〇両を山八反歩、米七八石の抵当で借りた。
	※	秋、二度風災におそわれた。そのため田畑が不作で諸物価も次第にたかくなった。
一八六一（万延二 文久元）	※	村民小上馬某が六浦瀬ヶ崎に新田をつくった（小上馬新田）。
一八六三（文久三）	※	永島段右衛門忠篤が龍華寺を再興した。のち鐘楼をたてた。
一八六五（元治二 慶応元）	※	柴村が佐倉藩堀田相模守の預り所となった。
	九	外人の遊歩道が完成しその沿道に外人専門の休憩所が設けられ

西暦	年号	月日	主なできごと
			た。金沢にも邦人名義で外人経営のミルクホールがあったというのもこのころである。
一八六七	(慶応 三)	※	柴村を代官江川太郎左衛門が支配した。
		※	六浦藩米倉氏の家老川上博好が「おさがり」という迷信により領民が連日歌舞する弊風をあらためさせた。
一八六八	(慶応四 明治元)	三・一三	六浦藩主米倉昌言が横浜の取締を命ぜられた。
一八六九	(明治 二)	八	県から「郷学校規則」が町村にくばられた。
一八七一	(明治 四)	一一・一四	廃藩置県の公布により六浦藩が六浦県となった。
一八七二	(明治 五)	一二・二一	横浜・横須賀・浦賀・三崎・金沢間の郵便がはじめられた。
一八七三	(明治 六)	六	富岡村持明院に郷学校（富岡小学校のはじめ）がひらかれた。
		五・二三	三分学舎（六浦小学校のはじめ）ができた。
		五・二六	知足学舎が洲崎村知足山龍華寺内の華蔵院（男生徒）引攝院（女

		生徒）にできた。教師は前田国松、篠原武で、助手が今井仙蔵生徒は二〇〇名であった。
	五・二六	赤井学舎（釜利谷小学校のはじめ）が釜利谷満蔵院にできた。
	一二	瀬戸明神社が郷社瀬戸神社となり、町屋の牛頭天王社および寺前の八幡社が村社となった。このころ、洲崎村の第六天社を洲崎神社とあらためて誉田別命をまつった。
	※	称名寺が紀州高野山金剛峯寺の末派となった。のち一九〇二年ごろまた西大寺末にもどった。
一八七五（明治　八）	※	柴村の小柴学舎をやめて知足学舎に合併した。
一八七六（明治　九）	一一・二〇	寺前村に知足学舎の校舎を新築して、金沢学校とあらためた。
一八七七（明治一〇）	九	コレラ病が流行したため、富岡に伝染病院がつくられた。
一八七八（明治一一）	五	三分学校の新築校舎ができた。
一八七九（明治一二）	二	各小区会所をやめて、各村に各戸長役場をおいた。

西暦年号	月日	主なできごと
	三・二二	今の富岡町二〇九五に富岡学校の校舎を新築した。
一八八三(明治一六)	※	金沢湾に海苔養殖場ができた。
	※	称名寺の瑜祇塔（愛染堂）がやけた。
一八八四(明治一七)	※	重野安繹が「永島亀巣翁功徳碑」の碑文を書いた。
一八八五(明治一八)	一二	はじめて村会が設けられた。
一八八六(明治一九)	四・二六	富岡村金波楼（富岡村一八九三）が株券を発行した。
	※	横浜市内にコレラ病が流行し、金沢でも患者四〇人余のうち二〇数名の病死者を野島付近共同墓地にうめた。
一八八七(明治二〇)	六	伊藤博文が金沢に来て夏島に別邸をつくった。
	七	佐藤忠蔵が「金沢名勝題詠集」を出版した。
一八八八(明治二一)	六・六	憲法制定のための会談が東屋旅館で行われ、七月三一日におわった。この会談はのち夏島の伊藤博文別荘にうつされた。

	九・二六	今の洲崎町九八に武蔵金沢郵便局（普通郵便の集配局）がひらかれた。
一八八九（明治二二）	四・一	町村分合改称令により富岡・柴・谷津・泥亀新田・寺前・町屋洲崎・野島の三ヵ村は合併して金沢村となり、三分村と釜利谷村が合併して六浦荘村となった。また峠村は東鎌倉村に合併された。
一八九〇（明治二三）	四・一	金沢郵便局が郵便為替および郵便貯金業務をはじめた。
一八九一（明治二四）	※	このころ、内務省勧農局が金沢湾に牡蠣（かき）の養殖をこころみた。
一八九二（明治二五）	一	永島段右衛門忠篤（号亀巣、八四才）が死んだ。
一八九四（明治二七）	三	野島学校が金沢学校に合併した。
	五・二三	東・西鎌倉村が連合した。峠はその一部である。
	五・一	金沢小学校が町屋の伝心寺を借り高等科教室にあてた。
	一一	横須賀軍港拡張のため長浦の消毒所を移して長浜検疫所ができた。

西暦年号	月日	主なできごと
一八九五(明治二八)	八・一九	金沢小学校の増築校舎ができて高等科生を本校に収容した。
一八九六(明治二九)	四	伏島近蔵が発起人となって金沢文庫の再興を計画した。
一八九七(明治三〇)	四・一七	伊藤博文が平沼専蔵の出資をえて金沢文庫を復興し石倉一棟と書見所一棟をたて、上棟式をあげた。
	五・一一	鎌倉町の一部であった峠(今の朝比奈町)が六浦荘村に編入された。
	一〇	伊藤博文が岡谷繁実に依頼して各国法律書三三〇冊を金沢文庫に寄附した。
一九〇〇(明治三三)	四・二八	三分小学校に高等科がもうけられた。このため金沢小学校に通学中の高等科児童(男三七名、女二〇名)が転入学した。
	五	六浦荘村三分と逗子町間の県道路を改修してトンネル六四間をつくった。

	※	明治三二～三三年ころ、町屋の柴田虎吉が静岡県浜名湖附近から蓮の種子を持ち帰り、泥亀新田に蓮根をうえたおなじころ、洲崎の山口藤五郎がトマト・パセリ・アスパラガス・サラダ菜など西洋蔬菜の栽培をはじめた。タマネギはこのころから栽培者が急増した。
一九〇三（明治三六）	※	洲崎（三月二三日）、野島（三月二三日）、柴（五月二一日）、富岡（六月一二日）、三分（八月六日）の各漁業組合ができた。
	※	このころ東京湾内の鰯漁をめぐって小晒網と六人網の漁師の間に衝突事件がおきた。
一九〇四（明治三七）	二・九	洲崎神社が八頭羅町街道中から龍華寺わき（現在の位置）に移った。
一九〇七（明治四〇）	八・二三	金沢村泥亀新田・屏風ヶ浦村間の道路改修のため富岡にトンネル二ヵ所を掘った。

西暦年号	月日	主なできごと
一九〇八(明治四一)	四	金沢小学校では児童がふえたため二部授業をおこなった。
	※	寺前の八幡社に神明社・鷲神社・王子社の三社をあわせてまつった。
一九〇九(明治四二)	六・三〇	瀬戸神社に室ノ木の熊野社・瀬ヶ崎の稲荷社・高谷の白山社・三艘の浅間社・川の諏訪社および日光社・大道の山王社・六浦の太神宮の八社をうつしてまつった。
	※	金沢小学校が洲崎の一民屋をかりて分教場とした。
	※	農商務省水産講習所が金沢村に牡蠣養殖場を設けフランス式の養殖試験をおこなった。
一九一〇(明治四三)	四・七	製塩地整理の法律が公布された。このため金沢・六浦の塩田が廃止された。
一九一一(明治四四)	二・一一	金沢郵便局が電信業務をはじめた。

一九一三（大正　二）	四	金沢小学校の新築校舎ができた。
	八・二八	近藤守重の「金沢文庫考」が出版された。
	九・一六	金沢郵便局が電話通信事務をはじめた。
	一〇・　一	三分・釜利谷間にトンネル（六二間）ができた。
	三・一一	富岡八幡社（八幡太神社）が村社となった。
	五・二〇	手子神社が村社となった。
	七・　八	町屋の牛頭天王社（町屋神社）と野島の稲荷社（稲荷神社）が村社となった。
	一一・二三	県告示で屏風ヶ浦から富岡に入る道路が国道となり、六浦の侍従橋から鎌倉町に入る道路が朝比奈県道、侍従橋東から逗子町に通ずる道路が逗子金沢県道となった。
	一二・二四	瀬戸橋附近にあった引攝院持ちの地蔵堂（金島山地福寺）を龍華寺境内にうつした。

西暦年号	月日	主なできごと
	※	五月ごろ、柴のトンネルができた。
	※	金沢村で柴へ通ずる道路の改修をおこなった。
一九一四（大正三）	三・五	泥亀新田の蓮根栽培創始者柴田虎吉（八五）が死んだ。
	三・一八	六浦荘村信用組合ができた。
	八・五	平田恒吉の「金沢と六浦荘時代」が発行された。
一九一五（大正四）	※	北条実時に正五位がおくられた。
一九一六（大正五）	六	六浦の侍従橋ができた。
	一〇・一	金沢郵便局が簡易保険業務をはじめた。
一九一七（大正六）	九	渡辺喜一外二〇名の発起で湘南電気鉄道株式会社ができた（黄金町・浦賀間）
一九二〇（大正九）	一〇・一	第一回国勢調査がおこなわれた。金沢村五二三二人、六浦荘村四二一九人であった。

	※	日本画家川合玉堂の別荘がこの年から昭和七年ごろまで富岡（旧富岡駅附近）にあった。
	※	日本画家鏑木清方の別荘がこの年から昭和一四年まで君ヶ崎にあった。
一九二一（大正一〇）	八・六	金沢郵便局が電話交換業務をはじめた。
	八・一八	相武自動車株式会社が横浜の八幡橋から金沢経由逗子間三〇分毎に乗合自動車の運行をはじめた。
一九二二（大正一一）	一・一二	称名寺内界が内務省から史跡の指定をうけた。
	六・一四	金沢村耕地整理組合が洲崎附近の旧塩田を埋立て集約的蔬菜栽培畑をひらく目的で設立をみとめられた。
一九二三（大正一二）	三	海老沼製綿場（現在地番の町屋町二七）がはじめられた。
	四・六	金沢村信用組合ができた。
	九・一	関東大震災がおきた。金沢村洲崎は震動を強く感じ全戸数一七

西暦年号	月日	主なできごと
		三戸がほとんどたおれた。また国道筋は亀裂を生じ地盤が約一米低下した。
	九・二五	金沢小学校校舎がたおれたため屋外授業をはじめた。場所は称名寺境内、宝蔵院境内、泥亀の永島邸内と高等科生は町屋神社境内であった。
一九二四（大正一三）	一	金沢小学校がわずか八教室のバラック校舎で授業をはじめた。
	八・二〇	金沢郵便局が洲崎町九八（現在地番）にうつった。
一九二五（大正一四）	一〇・一	第二回国勢調査がおこなわれた。金沢村五四一〇人、六浦荘村四三二六人であった。
	一一・二〇	金沢小学校の校舎を町屋町に新築して落成式をあげた（現在地）
一九二六（大正一五 昭和元）	一・一	金沢村が金沢町となった。
	二	三分・釜利谷両小学校が合併して六浦荘尋常高等小学校となっ

	三・九	た。
	八	六浦荘尋常高等小学校が釜利谷に分教場を設けた。
		六浦荘尋常高等小学校の校舎が六浦三、五四三（現在地）にできた。
	一〇	六浦の内川橋、六浦橋が完成した。
	一一・二七	夏島憲法起草遺跡記念碑除幕式が夏島で挙行された。
	※	関東大震災で倒れた称名寺の鐘楼が再建された。
一九二七（昭和二）	四・一	屏風ヶ浦村、大岡川村と日下村が横浜市に編入されたので、久良岐郡は金沢町と六浦荘村だけとなった。（現在の金沢区とおなじ）
	五	富岡・杉田境海岸のクツモ橋が完成した。
	九・三〇	金沢町耕地整理組合がサンドポンプを使用し平潟湾の土砂で一九町歩余の埋立工事を完了した。

西暦年号	月日	主なできごと
一九二八（昭和三）	一〇	谷津二の橋が完成した。
	※	神奈川県では昭和御大典記念事業のひとつとして大橋新太郎の寄附金（五〇、〇〇〇円）をあわせ一〇〇、〇〇〇円で金沢文庫と昭和塾をたてることにきめた。
一九二九（昭和四）	二・五	金沢文庫と昭和塾の地鎮祭がおこなわれた。
	五	湘南電気鉄道株式会社金沢車両修繕工場（現在地番の谷津町四〇〇の二）ができた。
一九三〇（昭和五）	四・一	黄金町・浦賀間と金沢八景、湘南逗子間に湘南電気鉄道が開通した。同時に今の金沢区内に設けられた駅は湘南富岡・金沢文庫・金沢八景の三駅であった。
	七・一〇	関靖が金沢文庫長になった。
	七	「武州金沢六浦案内」が出版された。

	八・八	金沢文庫（県立図書館）が開館式をあげた。
	八・二二	金沢文庫が公開された。
	一〇・一	第三回国勢調査がおこなわれた。金沢町六、〇二六人、六浦荘村四、六〇七人であった。
一九三一（昭和六）	三	金子隆英「金沢順礼」が出版された。
	六	金沢の乙艫橋が完成した。
	七・一	湘南電気鉄道株式会社が乙艫海岸に海水浴場をひらいた。
	一二・二六	京浜電鉄横浜市内乗入線（横浜駅・日ノ出町間）が開通、湘南電鉄との連絡が完成したので乗合自動車連絡は廃止された。
一九三二（昭和七）	六	山下鉄工所（六浦町四、〇三二）がはじめられた。
	※	寺前字称名寺、金沢文庫駅間の新設道路が完成した。
一九三三（昭和八）	一	洲崎の荒戸橋が完成した。
	四・一	京浜電鉄の省線品川駅乗入れと同時に品川・浦賀間の直通運転

西暦年号	月日	主なできごと
		がはじめられた。
	一一	六浦の三艘橋が完成した。
	※	このころ、横須賀自動車会社が杉田・横須賀間と浦賀・逗子・葉山間に乗合自動車を運行している。
一九三四（昭和九）	一〇・一一	今の富岡町三、一七五に日本飛行機株式会社ができた。
	一一・一〇	横浜海軍航空隊が富岡にできた。
	一一	株式会社葛谷商店金沢工場（現在地番の寺前一丁目四）がはじめられた。
一九三五（昭和一〇）	一一	相川製材所（六浦町一、六五六）がはじめられた。
	一	谷津一ノ橋（踏切側）が完成した。
	五	三昌電気製油研究所（現在地番の谷津町一六）がはじめられた。
	六	永瀬鋳造所（現在地番の谷津町三五二）がはじめられた。

一九三六（昭和一一）	六	杉田・横浜駅間を営業路線とする横浜乗合自動車と横須賀自動車が合併、湘南乗合自動車株式会社と改めた。
	七・一九	金沢の西洋蔬菜栽培開拓者山口藤五郎（六八）が死んだ。
	九・五	「金沢文庫本図録」上巻が出版された。
	一〇・一	第四回国勢調査が施行された。金沢町八、二六八人、六浦荘村五、七四〇人。
	一〇・二三	称名寺で北条実時六六〇年忌大法会がひらかれた。またその記念事業として大橋新太郎が金沢山から稲荷山、日向山にかけて百番観世音の石仏を奉配し、また金沢山上に八角堂をたて長浜観音をまつった。
	一一	金沢町昭和塾前の亀井橋が完成した。
	一二・二六	関靖の「北条実時と金沢文庫」が出版された。
	二・一	湘南乗合自動車会社が湘南電鉄会社に合併され、同社自動車部

西暦年号	月日	主なできごと
		となった。
	三	横須賀海軍航空隊拡張計画により野島地先と飛行場南側水路が埋立てられた。
	五・五	「金沢文庫本図録」下巻が出版された。
	五	釜利谷の待橋が完成した。
	六・一五	株式会社日本製鋼所横浜製作所ができた(現在地番の泥亀一ノ二七)。
	六・三〇	金沢町と六浦荘村の横浜市上水道給水区域編入が認可された。
	六	南洋舎が六浦町四、〇三三にドライクリーニング工場を新設した。
	七	青木巽氏が神奈川県会議長に就任した。(昭和一三年七月まで)
	八	六浦の諏訪の橋が完成した。
	九・二〇	飯田九一編「杉田金沢古今俳句集」が出版された。

	一〇・一	金沢町と六浦荘村が横浜市磯子区に編入された。
	一〇	横浜市上水道の金沢への給水がはじめられた。当時給水戸数は約八〇〇戸であった。
	一一・一	南消防署金沢出張所ができた。
一九三七（昭和一二）	四・一	横浜富岡郵便局が今の富岡町二、三五二にできた。
	五・一〇	六浦保育園（園長六浦正隆）ができた。
	八・一	関靖の「称名寺開山審海和尚」が出版された。
	八	富岡製材工場（富岡町二、三四三）がはじめられた。
	九・一五	「金沢文庫古文書」第一輯が出版された。
	九	杉浦製材所（現在地番の町屋町一四ノ一一）がはじめられた。
	一〇・五	関靖の「北条泰時・北条実時」が出版された。
一九三八（昭和一三）	三・五	市会議員選挙が執行された。
	五	合資会社桐ヶ谷工作所横浜工場（現在地番の谷津町二三）が

西暦年号	月日	主なできごと
		はじめられた。
	七・一	大日本兵器株式会社が設けられ、堀口八八に富岡兵器製作所、同じく堀口一二〇に湘南工機工場が設けられた。
	八・三〇	関靖の「かねさは物語」が出版された。
	一一	三陽製作所（富岡町二、二四一）がはじめられた。
	一一	関東瓦斯株式会社が六浦町四、八三〇の一に横浜工場をつくった。
一九三九（昭和一四）	二	湘南軽合金鋳造所（谷津町一五四）がはじめられた。
	四・一〇	金沢工業株式会社が谷津町一二にできた。
	四・一二	追浜海軍共済組合病院が六浦町五〇六にできた。
	七・一	金沢地区の町界・字界の変更、町名・字名の改称および地番の更正があった。

一〇	東京石川島造船所発動機部が東京佃島から富岡町昭和町三、一七四に移り、航空機部と改めた。
一二	湘南電気鉄道株式会社自動車部六浦燃料配給所（六浦町四、八三一）がはじめられた。
※	柴・長浜間の新トンネルが完成した（昭和一二年三月着工）。
※	神奈川県編「金沢文庫及昭和塾概要」が出版された。
一九四〇（昭和一五）	
六	「金沢文庫と郷土」（金沢文庫編）が発行された。
八	称名寺の古文書「手紙」から兼好法師の真筆が発見された。
一〇・一	第五回国勢調査が実施された。
一九四一（昭和一六）	
一・二七	金沢工業株式会社が日本航空器機株式会社と改めた。
二・一	横浜金沢文庫郵便局が寺前町一六にできた。
四・一	海軍航空技術廠支廠が、六浦町・釜利谷町・大川にまたがって設けられた。
八	石川島航空工業株式会社（資本金二五、〇〇〇、〇〇〇円）が

西暦年号	月日	主なできごと
	一一・二一	株式会社東京石川島造船所から分れてできた。
	※	「南総文庫目録」が金沢文庫から出版された。
一九四二(昭和一七)	二・一	釜利谷町入口踏切傍の白井橋が完成した。
	三・六	関靖の「国難と北条時宗」が出版された。
	四・一	横浜六浦郵便局が六浦町六八一にできた。
		野島・三分・洲崎の三漁業組合が漁業法の改正で合併し、金沢漁業会となった。
	六・一〇	市会議員選挙が執行された。
	六・一〇	横浜興信銀行金沢支店が町屋町二〇にできた。
一九四三(昭和一八)	三・一〇	「金沢文庫古文書」第二輯が出版された。
	一二・二五	南消防署金沢出張所が磯子消防署金沢出張所となった。
	※	金沢信用組合が横浜信用組合に合併された。

一九四四（昭和一九）	二・二三	富岡国民学校が焼けた。
	四・一	釜利谷町八七七に釜利谷国民学校、六浦町二、四五五に大道国民学校が、六浦国民学校から分れてできた。
	五・一〇	東京急行電鉄の谷津坂駅が設けられた。
	一一	野島・室ノ木間に八紘橋ができて渡船が廃止された。
	※	相武隧道が完成し、金沢・大船間の新道が開通した（昭和一七年起工）。
一九四五（昭和二〇）	二	石川島航空工業株式会社が中越航空工業株式会社と合併し、資本金二五、五〇〇、〇〇〇円となった。
	二	関東瓦斯株式会社が東京瓦斯株式会社に合併、横浜工場を東京瓦斯株式会社六浦工場と改めた。
	四・一八	関靖「武家の興学」（北条実時一門と金沢文庫）が出版された。
	六・一〇	空襲により富岡南部に爆弾が投下された。家屋の被害は全壊五

西暦年号	月日	主なできごと
		九戸、全焼一二戸であった。
	九・一九	富岡国民学校が富岡町一、四三一（現在地）にうつった。
	一〇・二二	追浜海軍共済組合病院が財団法人共済協会追浜共済病院と改めた。
	一〇	石川島航空工業株式会社が石川島産業株式会社と改めた。
	一〇	日本航空器機株式会社が松本産業株式会社と社名を改め民需産業にかわった。
	一二	大日本兵器株式会社が社名を日平産業株式会社に改め富岡兵器製作所と湘南工機工場を統合して横浜工場とし、民需産業にかわった。
一九四六（昭和二一）	一	日本飛行機株式会社が日飛産業株式会社と社名を改め民需生産にかわった。

一	関東学院中学部と工業専門学校が南区三春台から六浦町に移った。
二・一	財団法人剣心学園横浜中学校が富岡町五一〇に移った。
四・一	関東学院商業学校（南区三春台の関東学院工業学校が二一・三・三〇改称）と関東学院追浜工業学校（元海軍航空技術廠工員養成所内の追浜工業学校が二一・三・三〇設立変更により改称）が六浦町四、八三四に移った。
四・一〇	衆議院議員総選挙が執行された。
四	関東学院が高等商業部を復興して、六浦町に経済専門学校を設けた。
五・一五	恩賜財団済生会神奈川県病院が平潟町一四〇の元海軍工員寮内にできた。
六・一	磯子郵便局金沢分室が洲崎町九八にできて郵便集配業務（集配

西暦年号	月日	主なできごと
		範囲は富岡町を除く金沢区の全地域）と金沢郵便局から引継の電信業務をはじめた。また金沢郵便局は洲崎町二三に移った。
	六・二五	東京急行電鉄株式会社が釜利谷町一に旧第一海軍技術廠の一部を使って横浜製作所をひらいた。
	一〇・一	東京急行電鉄の湘南富岡駅が富岡町二、六六九（以前のガード上と別場所）にできた。
	一〇・一八	逗子ドレスメーカー女学院金沢八景分校（学院長小笠原のぶを）が六浦町瀬戸の佐野善階上を教室としてひらいた（当時の入学者二七名、教師一名）。
一九四七（昭和二二）	三	泥亀町北端から釜利谷町赤坂御仲井間の道路拡張工事が完成した。
	四・五	知事市長選挙が執行された。

四・二〇	参議院議員選挙が執行された。
四・二五	衆議院議員選挙が執行された。
四・三〇	市会議員選挙が執行された。
五・一	学制改革により国民学校を小学校と改めた。
五・一	六浦小学校が学制改革により休校し、大道小学校に収容された。
五・五	横浜市立六浦中学校が休校中の六浦小学校々舎を、横浜市立富岡中学校が富岡小学校の一隅にあった工員寮食堂をそれぞれ仮校舎として開校した。
五・二四	小沢二郎氏が横浜市会議長に就任した（昭和二六年四月二九日まで）。
五	松本産業株式会社が松本金属工業株式会社と改めた。
六・一	富岡、金沢、六浦、釜利谷の四地区事務所が開かれた。

西暦年号	月日	主なできごと
	六・一	横浜中学校が本牧中学校生徒四七五名を収容した。
	六・一六	六浦町三、五一九に横浜六浦川郵便局ができた。
	六	逗子ドレスメーカー女学院金沢分校が日本製鋼所女子従業員のため特別夜間部（授業一ヵ年）のクラスを編成した。
	七・六	逗子ドレスメーカー女学院金沢八景分校が六浦町四、五二二の現在校舎に移った。
	九・一	横浜中央電話局長者町分局金沢分室が谷津町三四六に開かれ、電話交換業務をはじめた。
	九	横浜市立富岡学園が富岡町二、〇九五に新設され、小田原市玉宝寺の横浜市戦災学童合宿教育所収容児童を移しさらに引揚児童、生活困難児童等を収容した。
	一〇・一	臨時国勢調査が施行され、磯子区役所金沢出張所管内の人口は

	四八、九三六人、一一、一二八世帯であった。
一〇・二〇	横浜市立六浦中学校が六浦町四、六四六の現在地校舎に移った。
一一・五	休校中の六浦小学校が復校した。
一一・一五	横浜市立富岡中学校が六浦町の旧海軍航空技術廠支廠の建物を改造して移り、横浜市立金沢中学校と改めた。
一九四八（昭和二三）	
一	釜利谷町赤坂四辻の大橋が完成した。
一	川端康成の「再婚者の手記」が「新潮」に連載された（金沢八景記載）。
二	日平産業横浜工場で争議がおきた。
三・一五	日飛産業株式会社が自動車修理役務業者となった。
三・二〇	六浦町の関東学院商業学校と関東学院追浜工業学校が合併して関東学院商工高等学校（夜間）となった。
三・二〇	財団法人剣心学園横浜高等学校が設立を認可された。

西暦年号	月日	主なできごと
	四	関東学院中学部が関東学院高等学校、関東学院中学校に分れた。
	五・一五	「金沢文庫と金沢八景」（金沢文庫編）が出版された。
	五・一五	金沢区が磯子区から分れて独立した（初代区長渡辺義雄）。
	六・一	京浜急行電鉄株式会社が東京急行電鉄株式会社から分れて独立した。
	六・六	横浜映画会社が「金沢八景」を撮影した。
	七・二	相川味噌醤油醸造株式会社が六浦町三、八六五に設けられた。これより以前は個人経営で一八六四年(元治元)創業味噌醤油の統制時には金沢区荷扱所であった。
	七・四	乙艫海岸に市営海水浴場ができた。
	七・一八	柴漁港の防波堤が完成した。
	八・一	常住人口調査が行われ、金沢区の人口は五一、七六五人、一一、

	六九四世帯であった。
八・一	磯子消防署金沢出張所が金沢消防司令補派出所となった。
八・二三	株式会社東急横浜製作所が東京急行電鉄株式会社から分れて設けられた。
九・一五	アイオン台風に襲われ、柴漁港の防波堤が一夜でこわされた。
一〇・五	県、市教育委員会委員選挙が執行された。
一〇・一一	金沢中学校が新築校舎（釜利谷町四四三）に移った。
一〇・一二	金沢区政協議会が結成された。
一〇・一四	日米化学株式会社が原沢製薬工業株式会社をそのままうけついでできた。
一〇・二三	磯子警察署金沢警部補派出所が金沢警部派出所に昇格した。庁舎は横浜市水道局金沢出張所と交換して改築転用した。木造二階建五六・五坪である。
一〇・二七	金沢中学校が落成した。

西暦年号	月日	主なできごと
	一一・二〇	庁舎増築落成祝賀式が行われた。
	一一・三〇	農業調整委員会委員選挙が執行された。
	一二・一〇	金沢警部派出所落成式が行われた。
	一二・一二	金沢区第一回農業産物品評会（会場金沢小学校）がひらかれた。
	※	横浜高等学校新聞部が隔月発行の学校新聞「桃源」を発行した。
一九四九（昭和二四）	一・二〇	区に弘報委員会が結成された。
	一・二三	衆議院議員選挙及最高裁国民審査投票が執行された。
	二・一	横浜市営バスの運行が、横浜・六浦間に開始された。
		同じころ京浜急行電鉄急行バスが横浜駅・三崎間に運行されはじめた。
	二・四	区内各小学校の児童作品展（会場区役所二階・会期六日間）がひらかれた。

三・一	京浜急行電鉄の六浦駅が六浦町一、五三三に設けられた。
三・一三	薬王寺本堂が再建され、入仏式が行われた。
四・一	横浜市立大学商学部が六浦町四、六四六に設けられた。（六・一授業開始）
四・一	六浦町の財団法人関東学院に関東学院小学校が設けられた（校長坂田祐）
四・一	横浜市清掃局金沢清掃出張所が金沢区役所の一隅に開設し（八・一七庁舎新設）、清掃事業が市直営になった。
四・一〇	高保興業合資会社が六浦町四、〇三三にできた。
四	関東学院大学経済学部、同工学部が開校した。
四	平潟町、済生会神奈川県病院が済生会若草病院と改めた。
五・二	日飛モータース株式会社（日飛産業第二会社）が設けられた。
五	乙艫の運河に野鳥橋ができて渡船が廃止された。

西暦年号	月日	主なできごと
	六・一	横浜中央電話局金沢分室が横浜長者町電話局金沢分室となった。また磯子電報局金沢分室が開かれた。
	六・一	横浜市大商学部が海軍技術廠あとに開学した。
	八・一	横浜市立金沢さくら保育園が泥亀町五に開かれた。
	八・一八	農地委員会委員選挙が執行された。
	八・三一	キテイ台風に襲われ、区内の所々に浸水家屋があり寺前の八幡神社前大銀杏も倒れた。
	八・三一	東京ガス株式会社六浦工場がガス製造を停止し六浦整圧所となった。
	九・二一	富岡漁業協同組合が設けられた。
	一〇・一四	柴漁業協同組合が設けられた。
	一〇・一四	柴駐在所開所式が行われた。

一〇・一八	金沢文庫駅前巡査派出所が開所した。
一〇・三一	金沢漁業協同組合が設けられた。
一一・二五	南簡易裁判所（管轄は南・磯子・金沢の三区）の開所式が挙行された。
一一	六浦町三艘の汐汲橋が完成した。
一二・一	南税務署新築庁舎祝賀式が行われた。
一二・一五	神奈川県が石川島産業株式会社の一部を買収して富岡町に布帛指導所および工業試験場を復活し神奈川県工業試験所を設けた。
一二・二六	旧横須賀海軍航空隊飛行場の帰属に関連して、横浜・横須賀両市境界線問題の折衝が行われた。
一二	釜利谷町の柿の木橋が完成した。
一二	安部和枝（平潟町住）の「小さき十字架を背負いて」が「週間朝日」に掲載された。

西暦年号	月日	主なできごと
一九五〇(昭和二五)	二・五	ルンビニー童園(園長小沢省元)が釜利谷町四四四に開園した。
	二・一〇	横浜信用組合が六浦信用組合を合併した。
	三・一二	三艘道路開通式が行われた。
	三	釜利谷町の北谷一の橋が完成した。
	四・二	横浜駅伝のため高松宮殿下金沢区役所に御台臨。
	四・一〇	横浜市立商業高等学校金沢分校が金沢中学校内に設けられた。修業期間が一ヵ年の夜間授業で、商業科、被服科に分けられる。
	四・一〇	関口泰(元朝日新聞論説委員)が横浜市立大学学長に就任した。
	四・二八	京浜急行電鉄逗子線に沿う三艘・南川間の通称千間通りが開通した。
	四	釜利谷町の明神橋・北谷二の橋が完成した。
	四	六浦町の国道沿いに染井吉野桜を植樹した。

五・四	生活保護法が公布された。
五・二八	京浜急行で24時間ストがおきた。
五・	横浜南法人会金沢支部（支部長相川藤兵衛）が設けられた。
六・一	自家用自動車組合金沢支部・金沢工業会・横浜南法人会金沢支部の三団体により金沢区商工連合会（会長高橋保）が設けられた。
六・一	参議院議員選挙が執行された。
六・四	金沢文化洋裁学院が設立認可された
六・一七	横浜市金沢保健所が金沢町四八にできた。
六・三〇	南川小公園開園式が行われた。
七・一五	民生安定所が区より独立新発足した。
八・一	漁業調整委員会委員選挙が執行された。
八・一五	天使幼稚園（園長ロコナイ神父）が金沢町五一にできた。
九・一〇	第七回国勢調査が実施され人口は五六、〇四〇人であった。
一〇・一	横浜市教育委員会委員選挙が執行された。
一一・一〇	神奈川県新八景選定に金沢八景は第八位に入賞した。
一一・一九	

西暦年号	月日	主なできごと
	一二・二八	富岡学園が焼けた。
	一二・三〇	金沢シネマができた。
一九五一（昭和二六）	一・一五	史跡称名寺保存会ができた。
	二・一一	伊藤博文公憲法顕彰記念碑除幕式（再建せるもの）が夏島で行われた。
	三・一五	金沢観光協会が区役所内にできた。
	三・一六	洲崎町海岸の平潟橋が完成した。
	三・一六	平潟橋落成式が行われた。
	三・二三	県工業試験所開所式が行われた。
	三・二九	金沢工事々務所開所式が行われた。
	四・一	横浜市立金沢高等学校が六浦中学校校舎の一部を借りて開校した。
	四・一	横浜高等学校に商業科が併設された。

四・一	関東学院商工高等学校に普通科の課程を設けた。
四・一五	大道西児童公園開園式が行われた。
四・二〇	横浜市営バスが六浦橋・白山道間の運行をはじめた。
四・二三	市長・市会議員の選挙が執行された。
四・二九	清水藤太郎（元県薬剤師会会長、金沢町住）が藍綬褒章を授与された。
四・三〇	知事・県会議員の選挙が執行された。
四・三〇	関靖の「金沢文庫の研究」が出版された。
五・一	関東配電株式会社常盤町営業所金沢出張所が、東京電力株式会社神奈川支店中営業所金沢出張所となった。
五・一	谷津坂病院が生活保護法指定病院となった。
五・一六	尾山篤二郎（歌人、寺前町住）が日本芸術院賞を授賞された。
五・二二	釜利谷バス乗入開通式が行われた。

西暦年号	月日	主なできごと
	五	釜利谷町の満蔵院橋が完成した。
	六・二〇	横浜市営金沢公益質舗が六浦町四、一〇九に開かれた。
	六	釜利谷町の大川橋・坂の橋・北谷三の橋が完成した。
	七・五	横浜市立八景小学校が泥亀町七に、横浜市立文庫小学校が寺前町一九五に、金沢小学校からそれぞれ分離し開校した。いずれも木造二階建一棟八教室である。
	七・一〇	金沢区観光祭第一部みなと祭が瀬戸埋立地で開かれた。
	七・一二	横浜公共職業安定所金沢分室が寺前に開かれた。
	七・二七	第二部観光まつり、観光ポスター展、万国切手展覧会開催。
	七	神奈川県工業試験所に振興部が新設された。
	七	釜利谷町の白山橋・宮下橋が完成した。
	八・一	金沢区観光祭第二部燈籠流しが平潟湾で行われた。
	八	「金沢保健所事業成績」が出版された。

九・一〇	芹沢勇氏金沢区長となり渡辺金沢区長は西区へ転出した。
九・三〇	金沢区戦没者慰霊祭が称名寺で行われた(五〇一人)。
※	六浦町大道の山王橋が完成した。
一〇・五	横浜市金沢警察署が磯子警察署から分離独立した。(初代署長(兼任)大津英男)
一〇・六	柴隧道補修工事開通式が行われた。
一〇・七	称名寺赤門移築落成式が行われた。
一一・二八	八景小学校開校式が行われた。
一二・一〇	南川橋落成式が行われた。
一二・一二	金沢高等学校々舎落成式が行われた。
一九五二(昭和二七)	
一・三	夕照橋開通式が行われた。
一・五	午前一時五〇分関東学院大学職員寮図書室が全焼した。
二・二	三艘道路開通式が行われた。

西暦年号	月日	主なできごと
	三・五	文庫小学校落成式が行われた。
	三	六浦町三艘の新川橋が完成した。
	三	六浦町大道の里の橋が完成した。
	四・一	遺族援護法が制定された。
	四・一六	八景小学校の増築校舎（木造二階建一棟四教室）が完成した。
	四・二一	横浜市立大学が文理学部を設けた。
	四・二一	国連金沢分会結成大会（於公民館）が行われた。
	五・三	金沢風景絵画展が区役所二階で開かれた。
	五・二三	文庫小学校の第二期工事（木造二階建一棟八教室）が完成して金沢小学校に委託授業中の児童（四・五年全部と六年の二学級）が転入学した。
	五・二九	泰道繊維株式会社特需部（釜利谷町一）が発展的解消をして、

	泰道化工株式会社横浜工場が設けられた。
五	富岡町の清水橋が完成した。
六・一	金沢小学校で「生活指導」（一～四集）が出版された。
六・一	麦類の統制が廃止され配給制度は米のみとなった。
六・二〇	富岡学園落成式が行われた。
六・二四	金沢警察署の新庁舎（木造二階建一二八・九坪）ができた。
六	舟越康寿「金沢称名寺々領の研究」（「横浜市立大学紀要」九・一〇号）が出版された。
六	柴漁港防波堤の復旧工事が完成した。
七・一	住民登録法が施行され登録人口五九、五七一人であった。
七・二	三艘新川橋落成式が行われた。
七・二〇	農業委員会委員選挙が執行された。
八・一六	金沢海の祭典納涼花火大会が行われた。

西暦年号	月日	主なできごと
	八	六浦町の南川橋が完成した。
	九	釜利谷町の宮川橋が完成した。
	一〇・一	衆議院議員選挙及び最高裁国民審査投票が執行された。
	一〇・一	金沢消防署として磯子消防署より独立
	一〇・五	県市教育委員選挙が執行された。
	一〇・五	金沢警部派出所が磯子警察より独立し金沢警察署となる。
	一〇・二一	株式会社大石商事興業部キリン座ができた。
	一一・一一	神奈川県工業試験所振興部が「業務報告」（昭和二六年度）を出版した。
	一一	朝比奈町の金の橋が完成した。
	一二・一	富岡・金沢・六浦・釜利谷の四地区事務所が廃止され富岡支員派出所が設けられた。

	一二・一	金沢民生安定所が町屋町五七に移った。
	一二・八	財団法人育成会谷津坂園ができた。
一九五三(昭和二八)	一・二四	永堀豊氏金沢区長となり芹沢金沢区長は鶴見区へ転出した。
	一	関東学院高等学校・中学校が南区三春台の本校と分離し関東学院六浦高等学校同六浦中学校と改めた。
	三	六浦町三艘の汐見橋が完成した。
	三	野島橋の修理が完成した。
	四・一	六浦町関東学院小学校が南区三春台の分校と分れて、関東学院六浦小学校と改めた。
	四・一	大道幼稚園(園長六浦嘉枝)が六浦町三、一二四にできた。
	四・一〇	白梅保育園(園長小泉金助)六浦町一、六五〇にできた。
	四・一九	衆議院議員選挙が執行された。
	四・二四	参議院議員選挙が執行された。

西暦年号	月日	主なできごと
	五・一五	金沢区独立五周年記念祝典が金沢小学校で挙行された。
	七・一七	野島山臨海綜合公園要望書を市長、市会議長、建設委員会に提出した。
	七・二六	NHKのど自慢素人演芸会を区政五周年記念行事として全国放送した。
	八・一	金沢区独立五周年記念恒例金沢海の祭典納涼花火大会が開催された。
	九・一五	金沢区独立五周年記念写真コンクール展覧会が開かれた。
	一二・一一	金沢文庫すゞらん通りアーケード開通式が行われた。
	二・二四	三艘火災一四世帯五棟全焼二棟が半焼した。
一九五四（昭和二九）	四・一	野島山植樹式が行われた。
	五・一五	区役所が「金沢歴史年表」を発刊した。
	六・一	金沢青果集荷場開場式が行われた。
	六・二九	野島山防空ごう接収反対の陳情をした。

七・一八	農業委員会委員選挙が執行された。
八・一〇	野島山防空ごう接収問題が無事解決した。
八・一二	漁業調整委員会委員選挙が執行された。
八・一五	金沢海の祭典海上カーニバルが行われた。
九・四	高谷子供遊園地が完成した。
一〇・二〇	県立工業試験所披露式が行われた。
一一・二	金沢レストハウス開所式が行われた。
一二・一	県立長浜療養所開所式が行われた。
一九五五（昭和三〇）	
二・二七	衆議院議員選挙が執行された。
四・二三	市長、市議、知事、県会議員選挙が執行された。
七・一	横浜市警が国警々察として発足した。
七・一六	六浦国道開通式が行われた。
八・一五	金沢消防署庁舎落成式が行われた。

西暦年号	月日	主なできごと
	八・一六	海の祭典金沢海上カーニバルが行われた。
	一〇・一	第八回国勢調査が実施され人口は六三、九七四人であった。
	一〇・三一	国体富岡射撃場開会式三笠宮、高松宮各妃殿下御台臨。
	一一・二	国体富岡射撃場へ天皇、皇后両陛下行幸啓。
	一一・五	谷津消防道路開通式が行われた。
	一一・二八	赤井谷道路が完成した。
一九五六(昭和三一)	三・一五	六浦中学校塩場分校が開校した。
	四・一	野島公園が開園した。
	四・一八	釜利谷耕地整理組合竣工式が行われた。
	五・三〇	六浦日用品市場新星マーケットが全焼した。
	六・二三	野島橋落成式が行われた。
	七・八	参議院議員選挙が執行された。

七・一八	釜利谷小学校プール開きが行われた。
七・二四	六浦町川道路完成式が行われた。
八・一二	海の祭典金沢カーニバルが行われた。
九・三	平潟下水ポンプ場が落成した。
九・二〇	朝比奈線バス開通式が行われた。
九・二四	金沢電話局分局開局披露式が行われた。
一〇・二八	金沢文庫称名寺開基北条実時公六八〇年祭が行われた。
一九五七（昭和三二）	
二・九	昭和三一年までに青砥町内会他四二町内会・自治会が発足済み。
六・一五	御仲井消防道路完成式が行われた。
六・二二	平潟児童遊園地開園式が行われた。
七・一七	九覧亭太子堂落成式が行われた。
八・一一	農業委員会委員選挙が執行された。
	海の祭典金沢カーニバルが行なわれた。

西暦年号	月日	主なできごと
	八・一二	金沢中央商店街の街灯が完成した。
	八・一九	富岡恵風母子寮落成式が行われた。
	一〇・七	新井助太郎氏金沢区長となり永堀区長は西区へ転出した。
	一〇・一三	称名寺庫裏新築落成式が行われた。
	一〇・二〇	区民レクリェーション大会(於金沢中学校)が行われた。
		堀口自治会他九町内会・自治会が発足した。
一九五八(昭和三三)	四・一	町屋町二一五県営金沢荘が火災で一二一一㎡焼失した。
	五	日本飛行機杉田製作所米軍接収が解除された。
	五・一一	区制一〇周年記念NHKラジオ体操、のど自慢全国放送を行った。
	五・一五	区制一〇周年記念式典が挙行された。
	五・一五	東京ガス(株)区内へガス供給を開始した。
	五・二二	衆議院議員選挙が執行された。

	一〇・一	六浦中学校塩場分校を本校へ、旧本校を六浦分校にした。
	一二・二〇	横浜市立大学体育館が完成した。
一九五九(昭和三四)	一・一一	六浦町四八三五塩場共同住宅が火災で一九六〇㎡焼失した。
	四・一四	六浦中学校六浦分校が廃止された。
	四・二三	知事、市長、県会、市会議員選挙が執行された。
	五	県水産指導所のり人工採苗所が設置(現水産試験場金沢分場)された。
	六・二	参議院議員選挙が執行された。
	一〇・一八	野島地先帰属に知事斡旋を横浜、横須賀両市が受諾した。
	一一・二〇	東洋化工(株)横浜工場が爆発した。(死者三、傷者五六一、被害建物五、〇二六)
一九六〇(昭和三五)	三・一〇	富岡北部町内会が発足した。
	三・一〇	八景団地造成のため泥亀町農地転用許可(〇・一六八㎢)。
	三・一一	金沢中学校の講堂兼体育館が完成した。 横浜公共職業安定所金沢出張所が完成した。

西暦年号	月日	主なできごと
	五・一〇	山田道成氏金沢区長となり、新井区長は市大事務局へ転出した。
	八・二八	富岡町一四三一教職員寮火災一一三七㎡焼失した。
	一〇	八景団地造成が着工された。
	一〇・一	第九回国勢調査が実施され、人口は七一、四四六人であった。
	一〇・二一	金沢文庫復興三〇周年記念式典が行われた。
	一一・二〇	衆議院議員選挙が執行された。
	一二・一〇	金沢中学校西柴分校が開設された。
	一二・二〇	金沢じんかい処理場が完成した。
一九六一（昭和三六）	四・一	国民年金、国民健康保険制度が実施された。
	六・二八	台風六号により災害、死者五、傷者二一
		全・半壊家屋一一二、浸水家屋三、七四四
	九・一	六浦中学校大道分校が開設された。

	一二・二三	六浦青少年の家が完成した。
	一二	野鳥公園に展望台ができた。
一九六二(昭和三七)		市営富岡住宅自治会、六浦睦会が発足した。
	三・二四	金沢高等学校体育館が完成した。
	五・七	大道小学校講堂兼体育館が完成した。
	五・一四	じんかい定日制計画収集が開始された。
	七・一	参議院議員選挙が執行された。
	七・二	県工業試験所本館、講堂が完成した。
	一二・三	金沢母子寮が新築（朝比奈へ）された。
		東芝団地若杉会他二、町内会・自治会が発足した。
一九六三(昭和三八)	三・二〇	釜利谷小学校講堂兼体育館が完成した。
	三	富岡町一〇〇地先海面が埋立（九、六七九㎡）られた。
	四・一七	知事、市長、県会、市会議員選挙が執行された。
	五・一	西柴中学校、大道中学校が独立した。

西暦年号	月日	主なできごと
	六・三〇	市立大学本校舎が完成した。
	七・三	区役所に助役制がしかれた。
	八・三〇	平潟湾埋立の免許を取得した。
	一〇・一三	区制一五周年記念大運動会が挙行された。
	一一・二一	衆議院議員選挙が執行された。
	一一	平潟湾埋立工事が着工された。
一九六四（昭和三九）		六浦町大道の山王橋が鉄筋化された。
	三	椿ヶ丘町内会が発足した。
	四・一	森秀吉氏金沢区長となり、山田区長は中区へ転出した。
	四	関東学院に大学院が設置（神学部）された。
	六	八景ポンプ場が操業を開始した。
	七・一	区役所に区民相談室が設置された。
	七・二五	雪見橋が完成した。

八	柴町海岸道路が開通した。
八	金沢区給水系統を西谷浄水場から小雀浄水場に切替られた。
九・二五	八景橋が完成した。
一二・一	横浜釜利谷郵便局が新設された。
一二・五	六浦中学校講堂兼体育館が完成した。
一九六五(昭和四〇)	望洋台町内会他四、町内会自治会が発足した。
三・四	六浦町三五五三六浦小学校火災一二一二㎡焼失。
三・三一	金沢小学校講堂兼体育館が完成した。
四・一	追浜共済病院、南共済病院と改称、本館が新築完成した。
四・一	金沢若草園が設立された。
四・一	民生安定所を福祉事務所と改称される。
四・	宮川、谷津川、各一部準用河川に制定される。
五・一七	根岸湾第二期埋立事業(ハ地区)に係る漁業補償が妥結した。

西暦年号	月日	主なできごと
	七・四	参議院議員選挙が執行された。
	一〇・一	第十回国勢調査が実施され、人口は八六、二五〇人であった。
	一〇	平潟橋が完成した。
一九六六（昭和四一）	一・一一	金沢職業訓練所が南区へ移転した。
	一・一七	大道中学校講堂兼体育館が完成した。
	二・二九	磯子農協金沢支所が完成した。
	三・三〇	八景団地造成が完成した。
	三・三一	平潟湾埋立が完成、柳町が設定された。
	三・三一	洲崎児童公園が完成した。
	四・一	高城一郎氏金沢区長となり、森区長は人事委員会事務局へ転出した。
	五	県道原宿六浦線が全面舗装となる。
	六・一一	北条実時画像外四点が国宝に指定された。

七・一五	釜利谷保育園が開園した。
七・一五	泥亀バイパスが開通した。
七・二五	磯子郵便局金沢分室が六浦町四、一三八へ移る。
八・八	横浜金沢電報電話局局舎が完成した。
九・一	富岡学園跡に新園舎完成三春学園として新発足した。

一九六七(昭和四二)

一・二九	桜ヶ丘町内会が発足した。
二・一二	衆議院議員選挙が執行された。
三・三一	参議院議員補欠選挙が執行された。
四・一五	八景記念会館完成、金沢八景公園が完成した。
六・二〇	知事、市長、県会、市会議員選挙が執行された。
七・七	金沢八景新駅舎が落成した。
七・一五	根岸湾八地区埋立が免許。
	金沢福祉事務所が六浦町四、八四八へ移る。

西暦年号	月日	主なできごと
	八・三一	市防災総合演習、野島公園室の木地区周辺で実施した。
	一〇・七	金沢地区埋立計画につき港湾審議会より運輸大臣へ答申した。
	一〇・二九	横浜金沢電報電話局が開局した。
一九六八(昭和四三)		谷津坂西部町内会、瀬戸橋住宅自治会が発足した。
	二・三	金沢病院が開院された。
	三・一〇	泥亀歩道が架設された。
	三・一〇	谷津坂歩道橋が架設された。
	三・三一	釜利谷事務所が廃止された。
	四・五	谷知晃氏金沢区長となり、高城区長は鶴見区へ転出した。
	五・一三	金沢警察署寺前町より泥亀町に移転、業務を開始した。
	七・七	参議院議員選挙が執行された。
	七・二五	金沢地先埋立事業計画が市議会で可決された。

	一一・二五	金沢郵便局が開局された。
一九六九(昭和四四)	五・一	鳥海ヶ丘町内会他四町内会・自治会が発足した。
	六・七	水道局金沢詰所を金沢出張所として業務を開始した。
	九	森下一男氏が横浜市会議長に就任した。(昭和四六年四月二九日まで)
	十二・二七	金沢区住民登録人口十万人を突破した。
一九七〇(昭和四五)		衆議院議員選挙が執行された。
	六・一五	東芝杉田コーポ自治会他六町内会自治会が発足した。
	一〇・一	金沢土木事務所が業務を開始した。
	一一・九	第一一回国勢調査が実施され、人口は、一〇八、六九三人であった。
	一一・一八	金沢地先埋立一号地埋立免許取得(港湾区域)。
	一一・一八	金沢地先埋立一号地埋立免許取得(富岡漁港区域)。
		米軍富岡倉庫地区跡地を緑の公園にと町内会長懇談会で決議後市長に要請書を提出した。
	一一	富岡町二、八五〇に消防出張所建設の起工式が行われた。

西暦年号	月日	主なできごと
		富岡梅林自治会他二町内会・自治会が発足した。
一九七一（昭和四六）	一・二九	金沢地先埋立てで富岡・柴・金沢の三漁業協同組合と漁業補償協定書に調印した。
	二・一	金沢地先埋立事業が着工した。
	二・二〇	金沢地先埋立て「海の公園」基本構想がまとまる。
	二	米軍富岡倉庫地区が正式に返還された。
	四・一一	知事、市長、県会、市会議員選挙が執行された。
	四・二三	ハ地区埋立地の町名決まる。昭和町、鳥浜町。
	四・二六	金沢区総合庁舎完成、区役所業務を開始した。
	五・一〇	近代的な施設をもつ富岡消防出張所が完成した。（救急車配置）
	六・一〇	村上武氏が金沢区長となり谷知区長は港北区へ転出した。
	六・一二	金沢公会堂が落成した。
	六・二七	参議院議員選挙が執行された。

七・一	西柴保育園が開園した。
一〇	鳥浜町に「南部市場」の建設が着工された。
一二	上西柴に人道橋を架設した。
一二・二八	金沢地先埋立事業第一次変更計画が市議会で可決された。
	ひかりが丘町内会他六町内会自治会が発足した。
一九七二(昭和四七)	
二	広域避難場所が指定された。
五・一	井上三男氏金沢区長となり村上区長は総務局へ転出した。
五・二二	金沢地先埋立二号地埋立免許取得。
五・二九	旧米軍富岡倉庫地区の跡地利用決定（横浜市72%・県16%国12%の三分割）。
七・一	富岡にプール完成、開園した。
七	県水産指導所のり人工採苗所(水産試験場金沢分場)が廃止された。
八・一	「池子(横浜市分)接収地返還促進金沢区民協議会」が発足した。

西暦年号	月日	主なできごと
	一一・一二	休日救急診療所開かれる（三師会協力による）。
	一一	六浦町にスロープ式歩道橋が架設された。
	一二・一〇	衆議院議員選挙が執行された。
		富岡シーサイドコーポ第一自治会八景ハイム自治連絡会が発足した。
一九七三（昭和四八）	四・一	西柴小学校、西富岡小学校、富岡中学校が開校した。
	四・六	全国選抜高校野球大会で横浜高校が初出場し全国優勝した。
	八・三	富岡総合公園整備工事が開始された。
	一一・八	南部市場が業務を開始した。
	一一	釜利谷市民の森が開園した。
	一二・八	金沢下水処理場が着工した。
		シーサイドコーポ第二他四町内会自治会が発足した。
一九七四（昭和四九）	三・一四	金沢地先埋立三号地・海の公園埋立免許取得

四・一九	金沢木材港へカナダより第一船が入港した。
五・二〇	石井敬一郎氏金沢区長になり、井上区長は民生局へ転出した。
五・二〇	金沢じんかい処理場が廃止された。
五・二七	峰尾恭人氏が神奈川県会議長に就任した。(昭和五〇年四月二九日まで)
六・二九	金沢地先埋立一号地しゅん功認可。
七・一	南六浦保育園が開園した。
七・七	参議院議員選挙が執行された。
一〇・二二	金沢区民会議が発足した。
一二・一二	金沢（第二）ポンプ場が着工した。
一二・二四	金沢地先埋立事業第二次変更計画が市議会で可決した。
一九七五(昭和五〇)	瀬ヶ崎台自治会他四町内会自治会が発足した。
三・二六	金沢地先埋立海の公園金沢ポンプ場用地しゅん功認可。
三・三一	二本松隧道が完成した。
四・一三	知事、市長、県会、市会議員選挙が執行された。

西暦年号	月日	主なできごと
	四・一	朝比奈小学校が開校した。
	五・二〇	北六浦保育園が開園した。
	六・二	林健氏金沢区長となり、石井区長は財政局へ転出した。
	七・二八	金沢区東部第一次地区住居表示が実施された。
	七・三一	金沢区災害対策連絡協議会が設置され発足した。
	八・二二	第一回金沢まつりが野島公園で三日間行われた。
	八・二三	金沢地先埋立二号地しゅん功認可。
	八・二六	環境事業局金沢事務所朝比奈町にて業務を開始した。
	九・一	釜利谷西小学校が開校した。
	一〇・一一	第十二回国勢調査が実施され、人口は一三五、三五〇人であった。
	一〇・七	谷津保育園が開園した。
	一〇・二五	鳥浜公園が開園した。

一九七六（昭和五一）

一〇・一九	東片吹団地自治会が発足した。
一〇・二八	金沢地先埋立地売却単価決まる。
三・三一	金沢地先埋立一号地住宅団地が着工された。
四・一	県立富岡高校が開校した。
四・四	平潟湾沿いに自転車道が開通した。
五・一	宮川沿いに自転車道が開通した。
六・二四	横浜逗子線の一部・泥亀釜利谷線の一部が開通した。
七・二六	金沢区東部第二次地区住居表示が実施された。
八・一	第二回金沢まつりが行われた。
八・四	神奈川海区漁業調整委員会委員一般選挙が執行された。
一〇・一	金沢自然公園都市計画が決定した。
一一・二〇	金沢区民会議第二期委員による区民会議が開催された。
一二・五	衆議院議員選挙が執行された。
	東谷津、防衛庁室の木宿舎四号棟自治会が発足した。

西暦年号	月日	主なできごと
一九七七(昭和五二)	一・一〇	金沢地先埋立地の一号、二号地の町名決まる。並木一、二、三丁目、幸浦一、二丁目
	一・一九	金沢市民の森設置が決定した。
	六・一	林区長退職、区長職務代理に河原区助役となる。
	六・一〇	区役所の機構改革により区助役制を廃止し、区政部・福祉部の二部制となる。
	六・一〇	神子剛康氏金沢区長に就任した。
	七・一〇	参議院議員選挙が執行された。
	八・一九	第三回金沢まつりが行われた。
	九・一二	金沢木材港関連企業第一次分進出きまる。
	九・一九	金沢地先埋立三号地、港湾区域分しゅん功認可。
	九・二六	金沢地先埋立地並木一丁目、幸浦一丁目に地番がつく。

一〇・一八	金沢埋立地内工業団地移転事業所選考審議会が設置された。
一一・二四	横浜商工会議所中小企業相談所金沢支所が開所された。
	ハイランド六浦自治会他二、町内会自治会が発足した。
一九七八（昭和五三）	
二・一〇	金沢地先「海の公園」新基本構想まとまる。
二・一七	福祉の風土づくり金沢区推進委員会が発足した。
三・一	飛鳥田市長が市議会議長に辞表を提出した。
三・七	横浜南共済病院の新館が落成した。
三・一一	金沢自然公園整備事業が（基盤造成）着工された。
三・一八	金沢市民の森整備工事が（第一期）着手された。
三・一八	横浜市立大学三号館文化系研究棟新築落成した。
三・二〇	瀬ヶ崎（小学校前）架道橋が完成した。
三・三一	創刊号（昭和二九年）に引続き区制三〇周年記念として「金沢歴史年表」を区で出版した。

凡　　例

○本年表の記載範囲は、中世から昭和53年3月31日までとした。

○暦年は、西暦と日本年号を併用し、( )は日本年号を示した。

○明治5年以前の日づけは、旧歴で表わした。

○記　号

・記事のはじめに8・24とあるのは、8月24日のことを示したものである。

・＊印は、その年の年月等が不明なことを示したものである。

・人名のあとに( )に入れた数字は、年令を示したものである。

・記事のおわりに(伝)とあるのは、文献等に見えているが、確実と断定できないことがらである。

（金沢歴史年表）

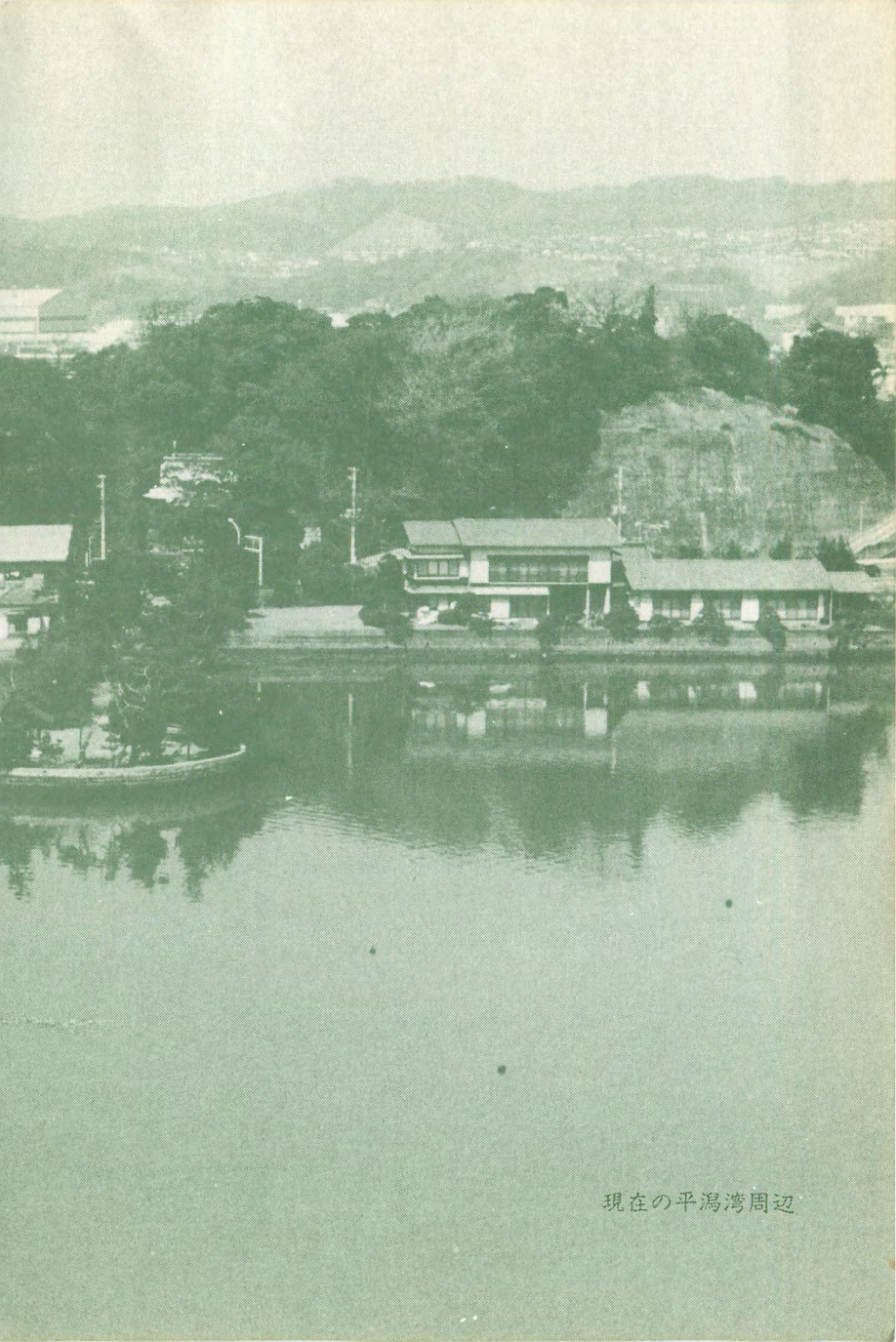
昭和53年 3 月31日発行

編　集　　横浜市金沢区役所
区政部総務課

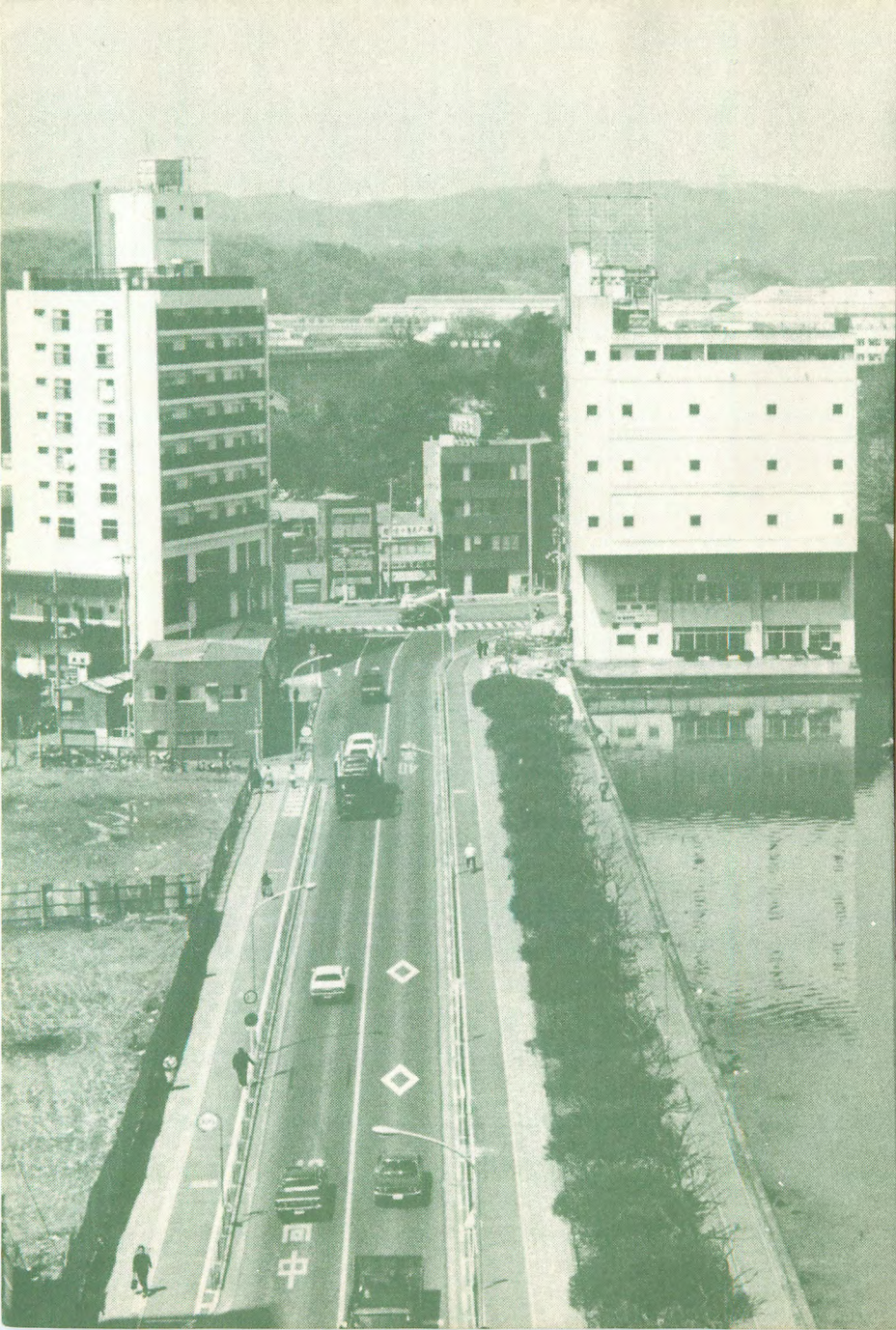
発行所　　横浜市金沢区役所

印刷所　　大成堂印刷有限会社

（刊行事務担当：金沢区区政部総務課庶務係 電話 045－782－1212）



現在の平潟湾周辺


同中